

みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報

昭和51年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



年報刊行にあたって

千葉県立美術館は、開館四年目を迎え、みる・かたる
つくる活動を総合的に展開し、県民の美の広場として
の使命達成に努めています。

この間の経過、組織、事業内容等については昨年度
「千葉県立美術館概要」として、年報的性格をもたせ、過
去3か年分を編集し、刊行しました。昭和52年度からは、
正規の年報としてまとめ、事業実績を中心に記録し、今
後継続的に刊行することにしました。

なお、「収蔵作品・研究資料目録」については、本年度
末現在で、別途編集・刊行する準備をすすめています。

本年報が、関係の機関・団体の方にはその成果の報告
となり、また広く学校教育・社会教育関係などには、千
葉県立美術館の内容をよりよく理解していただくための
手がかりとなることを意願している次第です。

昭和52年8月

千葉県立美術館長

市 原 正 夫

目 次

沿革	1
施設	2
主要記事	4
組織及び人員	5
事業	7
関係令規	30
平面図	32

沿革

1. 概要

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基き、建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務にあたった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月第2期工事の管理棟が完成した。

なお、千葉県の第5次総合5ヶ年計画により、第3期工事として、美術普及棟の建設が予定されている。

2. 運営方針

- 県民のための美術館として、明るい親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある作家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

3. 建設までの経過

昭和44年12月9日 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)

昭和45年1月19日 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される

昭和45年7月24日 建設地として千葉公園に内定する

昭和45年11月12日 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)

昭和46年3月31日 千葉公園敷地の美術館基本構想成る

昭和46年6月24日 体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる

代案として千葉中央港埋立地が提示される

昭和47年1月5日 建設地を千葉中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する

昭和47年3月31日 基本設計完了する 株式会社大高建築設計事務所

昭和47年7月31日 展示棟 第1期工事 の実施設計完了する

昭和47年10月13日 展示棟建築工事請負契約議案可決される

昭和47年12月10日 展示棟建築工事着工 管理・大高建築設計事務所、施工・竹中工務店

昭和48年4月1日 文化課に美術館準備班を置き、開館事務にあたる

昭和48年11月30日 管理棟 第2期工事 の実施設計完了する

昭和49年3月31日 展示棟建築工事竣工

昭和49年4月1日 千葉県立美術館発足する職員14名

昭和49年10月23日 開館記念式典を行なう

昭和49年10月24日 開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める

昭和50年3月13日 管理棟建築工事請負契約議案可決される

昭和50年3月15日 管理棟建築工事着工(管理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和51年2月15日 管理棟建築工事竣工

昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する

施設

1. 所在地

千葉市中央港1丁目10番1号

2. 設計監理

(株)大高建築設計事務所

3. 施工業者

- (1) 建築工事 (株)竹中工務店
- (2) 設備工事 電気設備・関東電気工事(株)
空調換気設備・東洋熱工業(株)
給排水衛生設備・第一管工事(株)
エレベーター設備・三菱電機(株)
- (3) 外構工事 (株)竹中工務店

4. 規模

- (1) 敷地面積 33,000㎡
- (2) 建築面積 6,191㎡
 - 展示棟 5,007㎡
 - 管理棟 1,184㎡
- (3) 延床面積 7,469㎡
 - 展示棟 5,194㎡
 - 管理棟 2,275㎡
- (4) 構造 鉄筋コンクリート
 - 展示棟 平家建
 - 管理棟 2階建

5. 特徴

本館の建設敷地は、千葉港埋立地内にあるため、建物に影響を与える塩害等の外的要因が予想され、これらの要因から貴重な美術品を守り、また美術品の展示・保管をより完全にするために、次のような施設・設備及び建築上の対策が考慮された。

(1) 施設・設備上の技術的処理

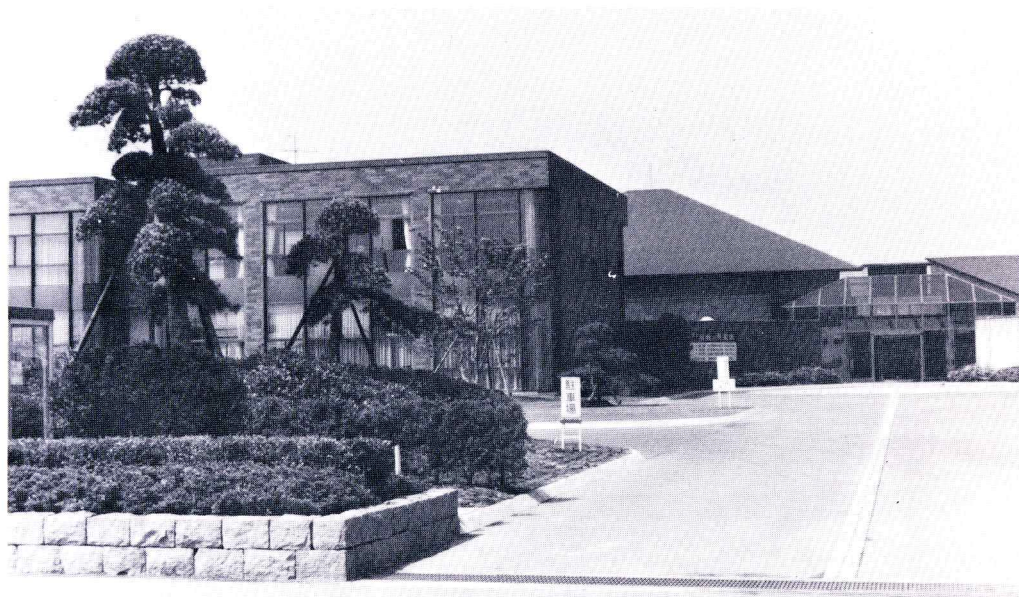
ア 大気中には、公害源といわれる亜硫酸ガス、降下粉塵、ちっ素酸化物、一酸化炭素及び塩分などが含まれているが、空気調和するにはこのような大気を浄化しなければならず、そのため大気浄化フィルターには、1自動巻取乾式フィルター、2高性能フィルター、3活性炭フィルター、4キャピラリーウオッシャーの4段フィルター方式を採用し、外気をほとんど完全浄化して建物の内部に導入している。

イ 出入口から入る外気や観客等が運びこんでくる塵などは、各展示室内の空調柱に内蔵してある2段方式の循環フィルターで浄化している。

ウ 館内の気圧を外気圧より+（プラス）圧にコントロールしておき、ドアの開閉時や隙間からの外気の進入を抑制している。

(2) 建築上の技術的処理

公害源から美術品を十分に保護できるような建物の形態と材料等の使用にあわせ、美術館にふさわしい風格と耐久性を持つように配慮した。



ア 外壁の仕上材は、構造体であるコンクリートを保護するため、通常使用している接着タイルの替りに常滑焼の特殊煉瓦（焼物打込タイル）を作製して直接打込み、耐久性を持たせるとともに重厚な趣を持たせた。

イ 屋根の仕上材は、金華山の天然スレートを採用、3枚重葺とし、屋根に降下する粉塵をすみやかに洗い落せるよう急勾配にしてあり、このことはまた内部の空間と建物の形態によりいっそうの効果を与えるようにした。

ウ 塩分は鉄部に急速に錆を発生させるので、耐候性高張力鋼という一度錆がでけると内部に錆が進行しない鋼材を使用した。

エ 外部に接する建具や金物は、腐蝕しないように厚い被膜を作る表面処理をし、また銅板を使用した。

オ 出入口はすべて二重ドアとし、外気の進入を抑制するように考慮した。

カ 敷地内には十分に植樹を行い、さらに建物を囲む周辺は緑地帯にするよう計画し、潮風等を緩和させるように配慮している。

6. 主要設備

(1) 電気設備

ア 受 電 6.6KV受電

イ 自家発電 100KVA、1,500RPMディーゼル発電機

ウ 蓄 電 池 非常照明及び操作電源用としてシールド型鉛蓄電池200AH54セル

エ 監視操作 コントロール室の監視盤により遠方操作

オ I T V ロビー及び展示室の状況を9台のカメラで警備員室のテレビに受像

カ 防犯設備 赤外線投受光器をロビー、展示室、通路搬入口及び収蔵庫等主要個所に12個設置し、警備員室で監視

キ 照明設備 主として褪色防止用蛍光灯を使用、展示構成によりスポットライト、ダウンライトを併用している。展示室によっては自然光と人工光をミックスして併用している。

(2) 空調換気設備

ア 冷熱源 スクリュー型空気熱源ヒートポンプ 216

冷凍t、水冷式チリングユニット冷凍機15冷凍t

電気式温水ボイラー72KW各1台、蓄熱槽 600 m³ × 1、100 m³ × 1

イ 空調和 外気処理用空調機（4段フィルター）CAV（一定風量）空調機、VAV（可変風量）空調機、事務室系統空調機、資料準備室系統空調機、収蔵庫系統空調機×2（3段フィルター）、ガラスケース内空調機、ヒートポンプは深夜電力によるピンボードスケジュール運転

(3) 給排水衛生設備

ア 給水設備 受水槽50 m³、給水ポンプにより直送

イ 給湯設備 貯湯式湯沸器3台、瞬間湯沸器2台

ウ 消火設備 ハロンガス消火設備を収蔵庫、電気室自家発電機室に設置、消火栓9カ所、自動火災報知設備（煙感知方式）、防火シャッター、防火扉、排煙ファン、排煙窓

エ 食堂設備 11卓、44人用

オ 身障者便所 展示棟に1カ所

(4) 昇降機

ア エレベーター 荷物用3t 1台

イ ホイスト 荷物用0.5t 1台

7. 工期及び建設経費

(1) 第一期工事（展示棟）

ア 工期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

イ 工事費 775,967千円

本 体 工 事 425,230千円

電 気 設 備 工 事 79,663千円

空 調 設 備 工 事 166,493千円

給排水衛生設備工事 28,995千円

外 構 工 事 67,705千円

ガ ス 工 事 7,881千円

ウ 設計監理料 29,613千円

(2) 第2期工事（管理棟）

ア 工期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

イ 工事費 453,800千円

本 体 工 事 305,500千円

電 気 設 備 工 事 30,000千円

空 調 設 備 工 事 79,000千円

給排水衛生設備工事 19,514千円

外 構 工 事 17,786千円

主要記事

1. 行事

- 4月1日 松戸館長離任式、市原新館長着任式を行う
2日 講演会「浅井忠とグレー村」を行う
20日 第1期常設展始まる（～8.1）
30日 友の会設立準備委員会を開く
5月18日 藤野天光展始まる（～6.27）
20日 千葉県博物館協会総会を当館にて開く、研究発表佐藤信夫副主席「藤野天光展の企画から展示まで、及び天光の芸術」
23日 美の旅バス見学会～下総の文化財と美術品を訪ねて～を行う
29日 友の会総会を開く
6月7日 登録博物館として県報に告示される 登録番号第9号昭和51年4月26日付 榎本正三氏より黄金ひは等81本の寄付を受ける
18日 美術館協議委員10名を依頼
7月9日 美術館協議会を開く
23日 博物館学実習生6名を迎える（～30）
27日 子どもの絵展始まる（～8.29）
30日 絵画実技講座～鉛筆デッサンから水彩画まで～を行う（～8.1）
8月7日 文化庁賞上優秀美術作品展始まる（～8.26）
9日 友の会役員会開く
18日 美術資料評価委員会開く、委員14名を依頼
21日 絵画実技講座～鉛筆デッサンから水彩画まで～を行う（～22）
9月1日 第2期常設展示始まる（～12.25）
13日 当館において千葉県立美術館・博物館職員等の広報技術研修会を開く
21日 香取秀真とその周辺展始まる（10.24）
23日 本日より日曜・祝日に限り美術館行のバスが運行される
26日 美の旅バス見学会～秋の箱根路を行く～（～27）
10月4日 第1回千葉県秀作美術展選考委員会を開く
5日 友の会作品展始まる（10.17）
9日 講演会「父秀真を語る」香取正彦氏 映画「余韻は生きる」
14日 美術館協議会を開く
11月1日 県教育功労者に当館協議会委員都司幹雄氏が選ばれる。
2日 美術館評価委員会を開く
3日 第28回千葉県美術展始まる（～11.14）
7日 来館者20万人目を記録
20日 高校芸術祭美術部門展、文化財写真展始まる（～11.28）
27日 版画講習会を開く（～28）
12月15日 展示会場利用調整会議を開く、参加団体43団体

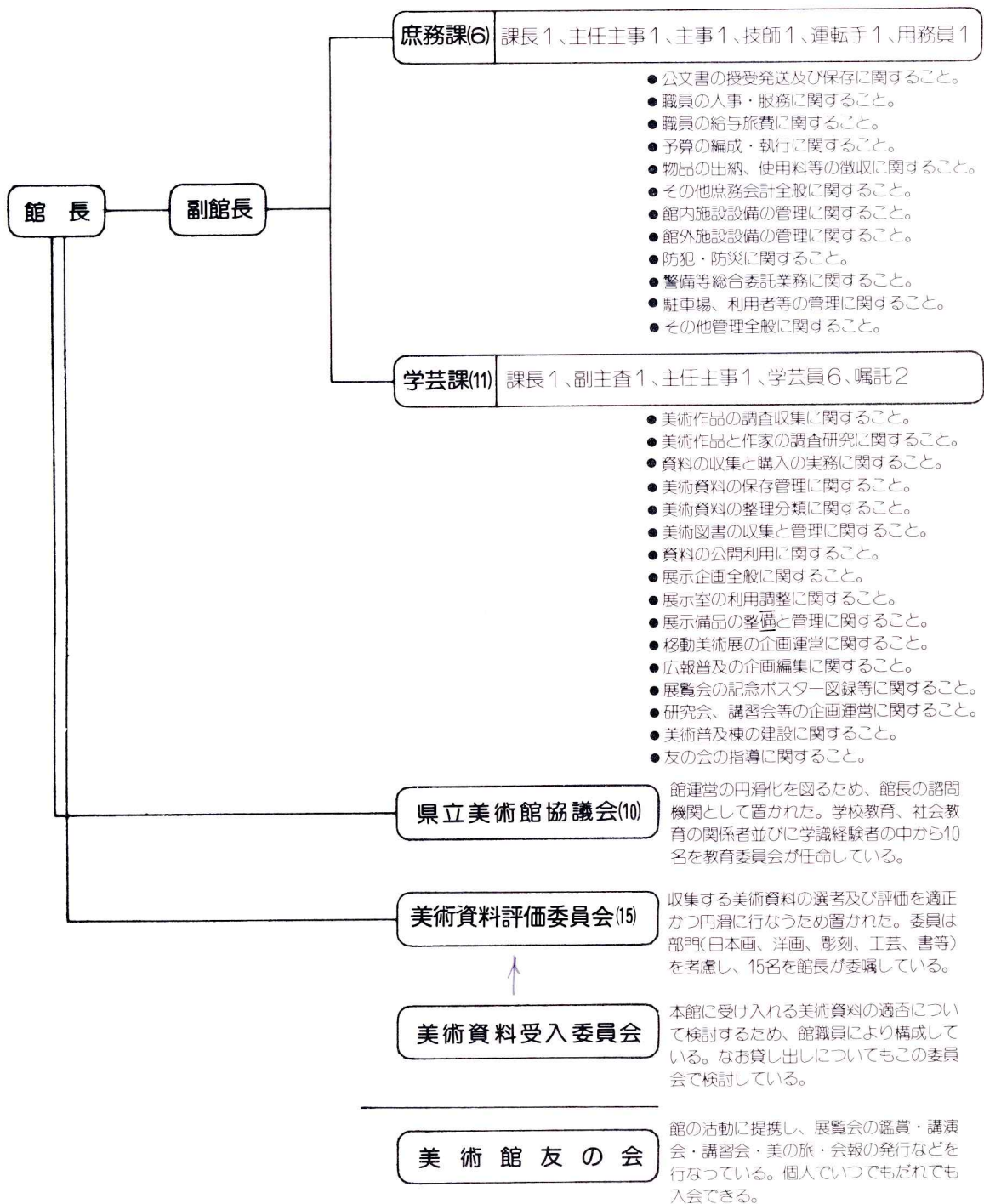
- 1月5日 常設展第3期（～3.31）、第1回千葉県秀作美術展始まる（～1.23）
8日 千葉県美術界新春パーティーを開く
18日 美術館評価委員会を開く
20日 美術館協議会を開く
22日 友の会役員会を開く
3月8日 ロータリークラブよりベンチの寄贈を受ける
12日 藤野天光作「ああ青春」像が玄関脇に完成 除幕式を行う
25日 千葉県立美術館紀要第1号発行「浅井忠特集号」 美術館協議会を開く
29日 市原館長、永年勤続で県教育長より感謝状を受ける

2. 視察

- 4月2日 佐倉市長
7日 京都大学 乾由明教授
9日 石井加代氏（石井柏亭末亡人）
18日 沖縄県史料編集所長大城立裕氏
27日 市川・船橋・松戸・銚子の各教育長
5月14日 三重県立美術館より4名
18日 長野県教育委員会より4名
6月1日 兵庫県立美術館より
3日 文化庁横瀬記念物課長
9日 東京国立近代美術館長
19日 北村西望氏
7月17日 沖縄県教育委員会より2名
29日 大分県議会文教常任委員一行
8月20日 沼田副知事
28日 寺田県教育委員長、神崎町教育長他
29日 神戸市社会教育部主幹呉田氏 原のぶ氏（原勝郎末亡人）
9月26日 香取正彦氏夫妻
10月6日 東京国立近代美術館杉原氏
20日 茨城県立美術博物館藤本氏他1名
31日 友納前千葉県知事
11月3日 今井県教育長
7日 川上県知事 埼玉県文化課より
12日 沼田副知事
29日 沖縄県具志川市教育委員会田場氏
12月18日 東京国立博物館 長谷川氏
1月19日 モスクワよりマルクス・レーニン研究所長
2月3日 岐阜県総務部営財課長他1名
9日 岩手県教育次長他1名
17日 福井県文化課長
3月27日 愛媛県立美術館より
23日 都鳥成一氏

組織および人員

●組織および事務分掌（52.4.1現在）



●職員および協議会委員・評価委員（昭和52.4.1現在）

職員

館 長 市 原 正 夫
副 館 長 高 橋 在 久

庶務課

課 長 坂 本 雅 生（渡辺三郎）
主任主事 高 橋 勝 利
主 事 菅 井 富 美 子
技 師 矢 部 喜 信（大堀幸則）
運 転 手 篠 原 恒 雄（井上和男）
用 務 員 長 島 則 子

学芸課

課 長 大 木 衛（石井則孝）
副 主 査 佐 藤 信 夫（佐藤 清）
（久保木良）
主任主事 宮 内 忠 昭
学 芸 員 中 村 哲
小 野 禮 子
米 田 耕 司
太 久 保 守
藤 川 正 司
前 川 公 秀
非常勤嘱託 石 井 秀 雄
渡 辺 真 彌

*（ ）内は52年3月31日付転出者

協議会委員

議 長 浅 見 喜 舟
副 議 長 鈴 木 民 三
委 員 相 川 勝 衛
遠 藤 健 郎
郡 司 幹 雄
笹 岡 了 一
鈴 木 秀 一
野 口 貞 子
牧 田 茂
八 代 進

評価委員

植 村 鷹 千 代
金 子 量 重
嘉 門 安 雄
隈 元 謙 次 郎
桑 原 住 雄
弦 田 平 八 郎
友 部 直
中 村 伝 三 郎
久 富 貢
細 野 正 信
堀 江 知 彦
本 間 正 義
前 田 泰 次
松 下 英 麿

事業

●企画展

1 近代房総の美術家シリーズ⑤

藤野天光展

会 期 51.5.18~6.27(36日間)

展示点数 36点

入場者数 7,786人

ア.趣 旨

近代房総の美術家たちシリーズは、房総に生れ、定住して、近代日本の美術界で活躍し美術振興のために貢献した美術家たちの顕彰をめざしています。

今回は、一昨年急逝した彫塑家・藤野天光に焦点をあてました。

藤野天光は、明治36年群馬県に生れ、初め木彫の後藤良につき、のち北村西望に師事し、昭和3年、東京美術学校を卒業しました。本名を隆秋といい、舜正と号し、昭和6年、市川市に居住しました。

写真より出発して、力強く若さに溢れた人間の美しさを追求し続けた天光は男性像を最も得意とし、数多くの大作を残しました。昭和43年、病魔のため声帯摘出の悲運に直面、この年に天光と改め、病を克服して日展等に大作を発表創作意欲はますます燃え、昭和48年には、若潮国体のモニュメントとして高さ8mの男性像「輝く太陽」を制作しました。

また、日展理事、日本彫塑会常務理事、千葉県美術会会長兼理事長など美術界内外の要職を歴任し、昭和40年には、日本芸術院賞を受賞し、千葉県文化功労者として知事表彰を受けました。さらに、千葉県立美術館の建設促進には、死の直前まで積極的に献身し、死後、従五位勲三等瑞宝章が贈られました。

本館では、藤野天光の芸術とその業績の一端を広く県民に紹介するため、この展覧会を開催しました。



イ.展示作品

作品名	制作年	作品名	制作年	作品名	制作年
1 鉄工	昭和11年	12 ああ青春	昭和37	23 新泉	" 46
2 狛犬	" 11年頃	13 月と語る	" 39	24 夢	" 47
3 銃後工場の護り	" 13年	14 光は天空より	" 40	25 りんご神像	" 48
4 美多子ちゃん	" 13	15 裸婦	" 42	26 輝く太陽	" 48
5 父にまさる	" 15	16 若き日のかなしみ	" 44	27 よくかんがえる	" 48
6 増産雄姿	" 17	17 若き日の悲しみ	" 44	28 もの思うころ	" 49
7 無	" 17	18 清流	" 45	29 和	" 49
8 感激	" 27	19 恋	" 45	30 天使	" 49
9 天籟	" 33	20 作品(栗小品)	" 45年頃	31 福ねずみ	不詳
10 人生	" 34	21 長寿神像	" 46年		
11 心眼	" 36	22 長寿	" 46		

ウ.教育普及事業

●解説会 5.29 佐藤信夫
6.19 石井則孝
北村西望氏講話

●印刷物 ポスター 62×47 1,200枚
目 録 B5版2折 2,000枚

2 子どもの絵展

会 期 51.7.27～8.29(30日間)

展示点数 240点

入場者数 6,977人

ア. 趣 旨

昨年に引き続き今年も夏休みを利用して開催されます。

子どもを対象とした展覧会としては、全国でも指折りの大きな団体である全国教育美術振興会から、優秀作品240点を借用展覧し、絵画に対する子どもの関心を高め美術教育の振興に寄与したいと考えている。

イ. 展示点数

幼稚園から中学3年までの各学年20点ずつ計240点を展示

ウ. 教育普及事業

解説会 8.7 久保木良

3 文化庁買上優秀美術作品展

会 期 51.8.7~51.8.26(17日間)

展示点数 66点

入場者数 4,075人

ア. 趣 旨

文化庁は、昭和41年度から49年度までに、国内の団体展・国際展・個展等で発表された作品の中から置上げた優れた美術品を、広く公開するため、国・公立美術館における巡回展を企画しました。

千葉県立美術館は、この文化庁の趣旨に賛同し、ここに展覧会を開催するものであります。この機会に現代日本の代表的な美術作品を、広く県民のみなさんに鑑賞していただき、美術の振興と普及に寄与することができれば幸いです。



イ. 展示作品

[illegible]

作 品 名

作 者 名

町 (ト レ ド)
L A C R E A T I O N
残 照
私 室 の 女
裸 婦
天 使 園 暮 色
コ ン シ ア ン ス

藤 田 吉 香
星 崎 孝之助
三 浦 俊 輔
三 尾 公 三
村 岡 平 蔵
本 山 唯 雄
森 省 一 郎

作 品 名

作 者 名

潮
シ ー ソ ー 1

吹 田 文 明
吉 原 英 雄

彫 刻

風 神 雷
若 き
花 を 持 つ 少
惑 オ ル ム ・
フ の 季
鳥 髪
蹲
フ ロ ジ ェ ク ト
聖 マ ン ト ヒ
蒼

神 女 星 1 節
大 内 青 圃
大 須 賀 力
千 野 茂
堀 川 泰
三 坂 耿 一 郎
水 船 六 洲
峰 孝
安 田 周 三 郎
保 田 春 彦
淀 井 敏 夫
和 田 金 剛

版 画

Well, Well, Well
Rainbow Volcano
Shade of atree
Grey in the shoe
風 景 T. L. K
風 景 T. L. M
現 在 位 置 - 存 在 C
雨 の あ と

雲 愛 嘔
雲 愛 嘔
井 田 照 一
井 田 照 一
小 野 木 学
小 野 木 学
木 村 光 佑
吹 田 文 明

ウ. 教育普及事業

- 解説会 8.14 米 田 耕 司
- 印刷物 図 録 B5版 44頁 1,000部
ポスター 73×51.5 1,000枚
目 録 B5版 2折 3,000枚



文化庁賞上
優秀美術作品展

4 特別展

香取秀真とその周辺

会 期 51.9.21~10.24(31日間)
入 場 料 一般 200円 大・高生 150円
中・小生 100円
展示点数 150点
入場者数 3,072人

ア. 趣 旨

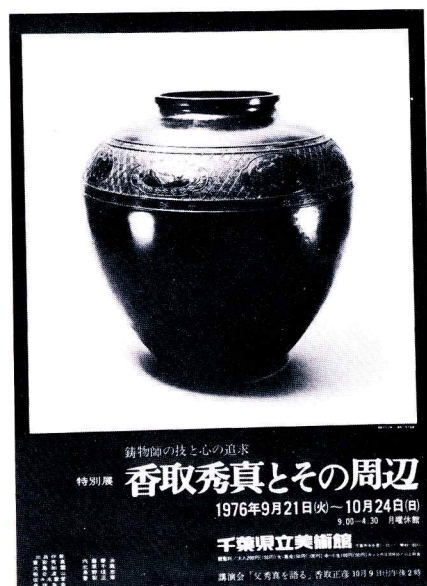
日本の鍍金工芸作家として、また、金工史家として香取秀真がわが国の近代美術界の発展につくした業績は多大であります。

明治7年、千葉県印旛郡印西町に生れ、佐倉市の郡司家で育った香取秀真は、東京美術学校鍍造科を卒業し、母校の教授をはじめ帝室技芸員、文化財専門審議会専門委員などを歴任して、後進の指導育成と古美術品の発見、評価、保存に貢献しました。

この間、鍍金工芸家として、古典的で品格の高い作品をのこし、また、金工史研究家として、伝統的な技法の研究を続け、多くの著書を世に問い、さらに、正岡子規門下の歌人としても活動して知られています。

昭和4年、帝国美術院会員となり、昭和28年文化勲章を受けたが、昭和29年死去しました。

千葉県立美術館は、日本近代美術史の流れの中で、本県にゆかりの深い香取秀真を中心に、師弟、友人等を含めその生涯を回顧し、真価を見直し、広く県民に理解していただくために、特別展「香取秀真とその周辺」を開催することになりました。



イ. 展示作品

作 品 名	
香 取 秀 真	
1	木 葉 香 炉
2	み み づ く 香 炉
3	金 銅 笑 獅 子 香 炉
4	鳩 香 炉
5	宝 船 香 炉
6	獅 子 文 香 炉
7	香 炉
8	鳳 凰 形 香 炉
9	獅 鈕 獅 耳 香 炉
10	虎 香 炉
11	鍍 銅 四 方 花 瓶
12	瑞 鳥 文 花 瓶
13	獅 文 扁 壺
14	羊 耳 付 花 瓶

作 品 名	
15	千 鳥 文 壺
16	呬 花 と 鶏 花 瓶
17	懸 花 生
18	燼 壺
19	瑞 獸 文 花 瓶
20	花 瓶 (一対)
21	獅 子 牡 丹 文 壺 花 瓶
22	鳳 凰 文 銅 花 瓶
23	靈 獸 文 大 花 瓶
24	金 子 う し 塑 像
25	獅 子 置 物 原 型
26	鍾 馗 像
27	鎮 子 (獅子)
28	老 君 之 像
29	弥 勒 像

作 品 名	
30	礎 山 人 像
31	柿 本 人 麻 呂 像
32	観 音 像
33	古 代 神 像
34	大 国 主 命 立 像
35	鶴 置 物
36	八 陵 鏡 瑞 鳥 文 嘯 龍
37	深 口 釜
38	六 角 火 鉢
39	鍍 鉄 茶 釜
40	茶 托
41	鉄 瓶
42	鍍 銅 灰 皿
43	魚 文 跳 子
44	魚 文 鉄 瓶

作 品 名	
45	獅子文火鉢(一对)
46	鉄 瓶
47	鉄 瓶
48	釜
49	釜
50	十二支文釜
51	風 炉
52	菊 文 釜
53	青銅瓶懸釜
54	風 炉 釜
55	建水火箸
56	環
57	昭和成辰御大礼記念火鉢
58	社 印
59	銅 印
60	鉢 銅 印
61	寺 印
62	銅 印
63	鈴
64	鉢銅水滴兔
65	水 滴

作 品 名	
66	箱庭用鉢銅作品
67	銅 印 (鳳凰鈕)
68	唐銅葡萄額面
69	燭 壺
70	鴟 鴞 面
71	花鳥文墨床釜
72	手 取 釜
73	建 水 鉢
74	竜 文 鉢
75	鉄 鉢
大 島 如 雲	
1	濡れ獅子図額
2	鯉 置 物
3	鯉 花 瓶
板 谷 波 山	
1	彩磁花卉文花瓶
2	黄鉛瓷花文瓶
佐々木 象 堂	
1	蟻型鉢銅置物「三禽」
魚 住 為 楽	
1	鉢 銅 花 瓶

作 品 名	
内 藤 春 治	
1	青銅花瓶
2	花鳥文八陵鏡
北 原 千 鹿	
1	透彫溪流文手篋
2	鶉文金彩壺
長 野 埴 志	
1	鱗波文宝珠釜
2	肩 衝 釜
香 取 正 彦	
1	鉢銅鶉文花瓶
2	葡萄文花瓶
3	大楠公模作像
4	神武天皇御尊像
5	鼎
6	水 盤
7	鉢銅日月文壺
8	香取神宮社印
9	愛の力の鐘
10	治癒の鐘

香取秀貞関係資料

資 料 名	
1	愛蔵品・青磁書院硯
2	〃 長壺花瓶
3	〃 唐三彩鉢子
4	〃 魚藻文小鉢
5	〃 鹿文青花小鉢
6	〃 古九谷杞燭小皿
7	〃 花鳥文漆皿
8	〃 軸装金具
9	遺品・懐中時計
10	〃 旅行時計
11	〃 杖
12	秀 貞 使 用 印
13	秀 貞 印 譜
14	秀 貞 書 簡・郡 司 勇 宛
15	秀 貞 書 簡・船 穂 栄 周 宛
16	著 作 原 稿 類
17	鉢 金 図 案 帳
18	短 歌 貼 交 屏 風

資 料 名	
19	山 部 赤 人 歌 屏 風
20	短 歌 扇 面 屏 風
21	鐘 の う た
22	大 仏 殿 の う た
23	犬 吠 岬 に て
24	山 百 合 の 根 の う た
25	興 垂 軍 公 乃 歌
26	片 貝 浜 之 歌
27	天 龍 峽 之 歌
28	紀 元 二 千 六 百 年 讃 歌
29	九 十 九 里 浜 に て 詠 め る
30	九 十 九 里 浜 に 遊 ぶ う た
31	短 歌・板 谷 波 山 画
32	〃 長 野 草 風 画
33	短 歌
34	短 歌 色 紙
35	短 冊
36	七 頼 笹 の う た

資 料 名	
37	短 歌 皿
38	新 年 同 詠 林 応 制 歌
39	絶 筆 集
40	自 選 歌 集
41	古 鏡 銘
42	白 練 鏡
43	忠 ・ 忠 彦 乃 為 に
44	孝 ・ 孝 彦 乃 為 に
45	信 ・ 信 世 乃 為 に
46	竹 の 画
47	歌 碑 草 稿
48	石 川 照 勤 宛 書 状
49	門 人 に 与 う る 書
50	〃
51	小 謡
52	秀 貞 先 生 (菅 原 安 男 作)
53	鉢 金 製 作 過 程 パ ネ ル

ウ. 教育普及事業

講演会 10.9 香取正彦氏「父秀貞を語る」 映画「余韻は生きる」

解説会 10.2 久保木良 10.16 米田耕司

印刷物 図録 B5版16頁 1,000部 ポスター 73×51.5 3,000部 チラシ B5版 3,000枚 目録 B5版2折 3,000部

5 第1回千葉県秀作美術展

会 期 52.1.5~1.23(17日間)

展示点数 116点

入場者数 4,151人

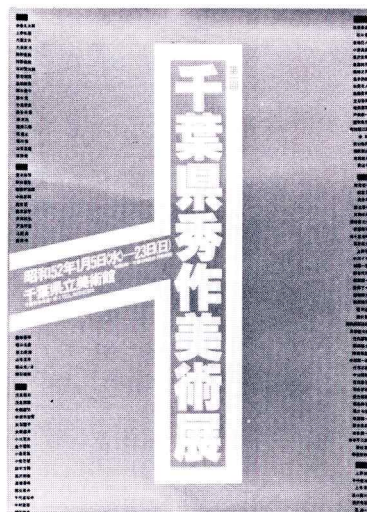
ア. 趣 旨

現在、千葉県には美術の各部門にわたり多くの作家が活躍し千葉県美術展覧会を始め、広く県内外の各種展覧会で、その作品を発表し今日に至っています。

今回、企画いたしましたこの第1回千葉県秀作美術展は、過去2年間(昭和49・50年度)という時間的な流れと、県内外という空間的な広がりのある数多くの団体展・個展の中から、美術記者・作家の15氏からなる選考委員会の審議を経て、日本画・洋画・彫塑・工芸・書・版画の6部門にわたる116作家の力作を一堂に展覧しようとするものです。

この6部門にわたる秀作展は、全国的にみても初めてといわれる画期的なものでありますが、県立美術館の使命・役割から、本格的に取り組むべき事業と考え、今後も隔年ごとに継続して開催いたす考えです。

本秀作展により県民の各位が本県の現代美術の精華と動向を概観され、今後の美術振興の糧となることを期待してやみません。



イ. 展示作品

作 品 名

作 者 名

作 品 名

作 者 名

日本画

鈴 音
化石の渚
河童駒引考屏風
魚 村
晩秋山河
山門雨後
深山の滝
眼の有る風景
海 花
樹 韻
華の幻想
富 岳
壁化する人たち(1)
うすれ陽
朝 霧
月 の 音
夕 静
雲 海
凍 林
川 口

秋 葉 長 生
石 川 響
岩 崎 巴 人
小 野 具 定
黒 沢 吉 蔵
後 藤 純 男
篠 崎 之 男
島 多 訥 郎
杉 原 元 人
高 橋 澄 爽
立 石 春 美
時 田 直 善
戸 田 康 一
富 取 風 堂
西 村 昭二郎
林 功
東 山 魁 夷
福 田 鑒 治
松 尾 敏 男
渡 辺 学

老 婆
くるむA
こ ど く
水 差 し
ハレエ衣裳の少女
室 内
勝利の像(インドの神々シリーズ)
DUMMY
詩
月 (B)
出を待つ人々(バイオリン演奏)
表皮人間(切1)
回 想
天使とヤコブの闘い
奉納絵馬より「翔」
工 場
山 麓 雨 霽
小諸にて・浅間白雪
川 岸
作品(赤)―「対」
聖 堂

秋 吉 匠
浅 井 昭
麻 生 蓉 子
天 野 三 郎
荒 谷 直之介
安 藤 信 哉
五十嵐 光 昭
石 井 武 夫
上 野 実
小 川 イ チ
加 藤 一 豊
熊 谷 文 利
桜 田 精 一
笹 岡 了 一
篠 崎 輝 夫
柴 田 祐 作
鱸 利 彦
関 口 誠
高橋 規矩治郎
高 松 健太郎
竹 内 庸 悦

洋 画

静 物

秋 元 松 子

作 品 名	作 者 名
心中飢餓海峡	積 田 鯉 土
軍 鶏 図	時 田 幸 彦
閑	中 村 亮一郎
深緑サンマルタン	中 山 爾 郎
コンポジションG	行 木 正 義
閑 日	花 田 忠 吾
静かに待つ鳥（はげこう）	羽 生 智 樹
白 頭 坊	針 生 鎮 郎
仮面シリーズ「影」	福 島 和 子
高原の樹々	溝 口 七 生
石と蛙と池の水	峰 岸 義 一
午後の宴	森 本 草 介
樹陰の沐浴	山 谷 鉄 一
梳づる女	山 本 不二夫
回転木馬	渡 辺 晋
楽 士	輪 違 宜 和

彫 塑

高い所が好き	伊 藤 礼太郎
踊り子ー幕間ー	上 野 弘 道
家 族	大 国 丈 夫
足を組む	大須賀 力
あるポーズ I	岡 野 重 義
青春の譜	神 野 義 衛
うごめくトルソー VI	木 村 賢太郎
みつくろい	郡 司 和 男
人間家族・誕生	島 田 勝 吾
FEELINGーLOVE	鈴 木 啓 子
梱包された物をみる人	鈴 木 実
風の肖像	中 島 幹 夫
小さな患魔	長谷川 昂
水の中の太陽（'75ーい）	原 武 典
長い髪のとろろ	蛭 田 二 郎
さつきが丘の午後	堀 豊 之
フォルム♀	堀 川 恭 弘
追 憶	山 本 正 道
夏の終り	吉 野 毅

工 芸

雪	青 木 滋 芳
金彩飾箱	秋 山 逸 生

作 品 名	作 者 名
炸	猪 俣 伊治郎
陽 浴	小 林 正 利
莫漠の道	佐 治 正
しるべ	鈴 木 治 平
オルフェの遺言	武 田 武 弘
群生の彼方に	戸 島 甲 喜
向いあう単体	土 肥 満
作品73	信 用 洋
飾 筥彩雲	藤 田 喬 平
薔薇の夜	堀 口 光 彦
彩盛磁木蓮壺	宮之原 謙
念	山 本 正 年
過刻ー3	横 山 光ノ介
ギリン	綿 引 道 郎

書

櫓 櫓	浅 見 喜 舟
古泉千櫓の歌	浅 見 錦 龍
日 和	今 関 修 竹
漱 石 詩	宇津木 雀 替
待 君	大 石 隆 子
レクイエム（師に捧ぐ）	大 野 虚 舟
ど ん	小 川 瓦 木
自作俳句ー飛弾の高山	金 子 聰 松
万葉集東歌	小 暮 青 風
柿本人麻呂の歌	小 安 花 邨
天地ー沙鷗	鈴 木 方 鶴
飛 泉	高 沢 南 総
盟 鷗	高 橋 蒼 峰
蘇る黄河	種 谷 扇 舟
沙漠は美の廻廊	千代倉 桜 舟
和歌一首	中 村 象 閣
黄山谷詩	福 田 寛 州

版 画

原始野・F	上 野 誠
祭りの日	牛 玖 健 治
オリジナル・モノタイプ	上 矢 津
ポルトフォリオ	浜 口 陽 三
メヒコ（影）A	深 沢 幸 雄
樹（赤）	星 襄 一

◎作家50音順

ウ. 推薦・選考委員（50音順）

青木 滋 芳・浅見 喜 舟・植村鷹千代・大須賀 力・加藤 貞 雄・桑原住 雄・笹 岡 了一・立石春美・千代倉桜舟
中村伝三郎・細 野 正 信・堀 江 知 彦・本間正義・村瀬雅夫・山谷 鉄 一

エ. 教育普及事業

印刷物 図録 A判変型 140頁 1,000部 ポスター 73×51.5 1,000枚 目録 B6版2折 1,000部

(6) 常 設 展

1) 第1期

会 期 51.4.20~8.1(91日間) 展示点数 53点 入場者数 18,595人(1期~3期)

ア. 趣 旨

千葉県立美術館も開館以来三年目を迎え、その間房総ゆかりの美術家を中心に調査・研究をすすめ、合せて作品の収集につとめてきました・作家及び作品の所蔵者等の協力もあって収蔵作品も充実してきたので、本年度から作家別コレクションを中心に順次常設展示を行うものであります。

前年度までの企画展“近代房総の美術家たち”シリーズによってすでに紹介されたものも多く、それらを集約して一堂に展示することによって、近代房総の美術の流れの一端を紹介するものであります。

イ. 展示作品

作 品 名	作 者 名	作 品 名	作 者 名
洋 画		門	東 山 魁 夷
母 の 肖 像	浅 井 忠	彫 塑	
老 母 像	浅 井 忠	伊藤博文像	小 倉 惣次郎
婦 人 像	浅 井 忠	七 面 鳥	鈴 木 章
沢 入 駅	浅 井 忠	希 望	藤 野 天 光
農 家	浅 井 忠	工 芸	
神 女	フォンタネージ	鳳 鳴 薰 炉	津 田 信 夫
八 瀬 の 秋	都 鳥 英 喜	鷺	津 田 信 夫
青いセーターの女	霜 鳥 之 彦	北辺夜猫子	津 田 信 夫
信 州 風 景	石 井 柏 亭	雷獣文大花瓶	香 取 秀 貞
風 景	松 岡 寿	九 曜 盤	信 田 洋
風 景	間 部 時 雄	書	
森 (A)	原 勝 郎	題山陽先生遺像詩	鮮 松 塘
街灯のある風景	原 勝 郎	崔子玉座右銘	浅 見 喜 舟
京 橋	原 勝 郎	版 画	
テッサンA・B・C(3点)	原 勝 郎	版画集(7点)	浜 口 陽 三
巖	椿 貞 雄	赤い鉢と黒いサクランボ	浜 口 陽 三
鋸山から見た房総半島	椿 貞 雄	したびらめ	浜 口 陽 三
横堀角次郎兄の像	椿 貞 雄	ピーマンのある静物	浜 口 陽 三
白鷺のいる風景	石 橋 武 治	26のサクランボ	浜 口 陽 三
水 辺 初 夏	石 橋 武 治	赤 い 鉢	浜 口 陽 三
筑 波 遠 望	石 橋 武 治	ピンとサクランボ	浜 口 陽 三
日本画		資 料	
山 茶 花 図	椿 貞 雄	東宮御所壁飾画草稿1-2	浅 井 忠
か れ い	椿 貞 雄	教科書原画1-3	浅 井 忠
波上海女の図	若 木 山	教 科 書	浅 井 忠
わ た つ み	若 木 山	槐 庭 画 帳	浅 井 忠
浦 島 太 郎 図	石 井 林 響	スケッチブック	浅 井 忠
幽	田 岡 春 徑		

ウ. 教育普及事業

印刷物 目録 B5版 2折 10,000部

2) 第2期

会 期 51.9.1～9.15(13日間) 11.20～12.25(31日間) 展示点数 96点

ア. 趣 旨

千葉県立美術館も開館以来三年目を迎え、その間房総ゆかりの美術家を中心に調査・研究をすすめ、合せて作品の収集につとめてきました。作家及び作品の所蔵者等の協力もあって収蔵作品も充実してきたので、本年度から作家別コレクションを中心に順次常設展示を行うものであります。

前年度までの企画展「近代房総の美術家たち」シリーズによってすでに紹介されたものも多く、それらを集約して一堂に展示することによって、近代房総の美術の流れの一端を紹介するものであります。

イ. 展示作品

作 品 名	作 者 名	作 品 名	作 者 名
日本画			
花鳥図	黒沼 槐 山	水辺 初夏	石橋 武治
おこぜ	椿 貞雄	筑波 遠望	石橋 武治
常陸乙女	若木 山	彫 塑	
早 春	若木 山	伊藤博文像	小倉 惣次郎
穀 機	加倉井 和夫	七面鳥	鈴木 章
夜	渡辺 学	荷る女	大須賀 力
門	東山 魁夷	工 芸	
洋 画		鳳 雛 薫 炉	津田 信夫
田の肖像	浅井 忠	鷺	津田 信夫
老 田 像	浅井 忠	北辺夜猫子	津田 信夫
婦 人 像	浅井 忠	象 嵌 地 鉢	宮之原 謙
フランス風景	浅井 忠	書	
収穫(スケッチ)	浅井 忠	故郷之山河	種谷 扇 舟
八瀬の秋	都鳥 英喜	古泉千樫の和歌	中村 象閣
青いセーターの女	霜鳥 之彦	版 画	
信州風景	石井 柏亭	版画集(7点)	浜口 陽三
風 景	松岡 寿	う さ ぎ	浜口 陽三
風 景	間部 時雄	190と1匹	浜口 陽三
森 (A)	原 勝郎	2匹のテントウ虫	浜口 陽三
街灯のある風景	原 勝郎	赤いパイプ	浜口 陽三
京 橋	原 勝郎	くるみ	浜口 陽三
テッサンA・B・C(3点)	原 勝郎	テーブル掛けとサクランボ	浜口 陽三
鴨 図	椿 貞雄	資 料	
鋸山から見た房総半島	椿 貞雄	図案草稿	浅井 忠
横堀角次郎兄の像	椿 貞雄	絵葉書(1-3)	浅井 忠
白のいる風景	石橋 武治	著作集	浅井 忠

ウ. 教育普及事業

印刷物 目録 B5版 2折 5,000部

3) 第3期

会 期 52.4.5~3.31(75日間) 展示点数 101点

ア. 趣 旨

千葉立美術館も開館以来3年を経過しようとしています。その間房総ゆかりの美術家を中心に調査・研究をすすめ併せて作品の収集・展示につとめてきました。

前年度までの企画展「近代昼絵の美術家たち」シリーズによってすでに紹介されたものに、さらに新収蔵作品を加えて一堂に展開し、近代房総の美術の流れの一端を紹介するものであります。

イ. 展示作品

作品名	作者名	作品名	作者名	作品名	作者名
日本画		自画像			
門	東 山 魁 夷	Clouds	椿 貞 雄	花器(のびゆく湾)	信 田 洋
群魚	富 取 風 堂	Hearts	雲 愛 暲	九曜盤	"
滝	関 主 税	Insects	"	釉彩両耳花瓶	土 肥 刀 泉
狗	立 石 春 美	Birds	"	象嵌地鉢	宮 之 原 謙
秋趣	島 多 訥 郎	Angeles	"	瑞光	山 本 正 年
原野	松 尾 敏 男	朝市	"	苑	佐 治 正
獅子舞	大 浦 操 水	花籠	遠 藤 健 郎	祈り(啓蒙)	小 林 正 利
洋 画		版 画	榎 本 了 三	書	
母の肖像	浅 井 忠	版画集		てん刻	石 井 雙 石
老母像	"	バリイの屋根	浜 口 陽 三	良寛の詩	浅 見 錦 龍
婦人像	"	1/4のレモン	"	天鼓	小 暮 青 風
フランス風景	"	ういきよう	"	視思明	金 子 聰 松
収穫スケッチ	"	したびらめ	"	万昌	鈴 木 方 鶴
奈良郊外	"	テントウ虫	"	雲無心	鈴 木 清 香
沢入駅	"	26のサクランボ	"	資 料	
男性裸像	"	赤い鉢と黒いサクランボ	"	茶器(猿蟹合戦図)	浅 井 忠
房州白浜	"	赤い鉢	"	茶器(山水画他)	"
印旛沼	"	ブラジルの太陽	"	花瓶	"
八瀬の秋	都 鳥 英 喜	トラベラーズジョイ	池 田 満寿夫	農家風俗画皿	"
洛北の早春	"	(詩画集)		図案皿	"
巴里郊外	"	彫 塑		菓子器	"
緑のセーターの女	霜 鳥 之 彦	倚る女	大須賀 力	向付皿	"
秋果	"	七面鳥	鈴 木 章	ようじさし	"
ロシアの女	"	遙	綿 引 司 郎	茶托	"
丘上の鐘楼	大久保 作次郎	女性マスク	荒 居 徳 亮	羅漢像	"
庭園に遊ぶ	渡 辺 百合子	聖観音	大 川 逞 一	蟠仙人	"
釈尊降誕	林 明 善	呻	神 野 義 衛	ライオン	"
街灯のある風景	原 勝 郎	秋茜	本 田 悦 久	お福	"
京橋	"	工 芸		書軸	石 井 雙 石
モンマルトル	"	入江	青 木 滋 芳	短冊	"
コーヒーひき	"	寂	"	色紙	"
樹	"	洞門	"	印譜	"
黒壺に椿一輪	椿 貞 雄	池	"	画帳	"
八重子像	"	望洋	"	折本	"
水彩画家	"	岩礁	"	屏風	"
老政治家	"	蠟銀ひさ古瓶	信 田 洋		

ウ. 教育普及事業

印刷物 目録 B5版 5,000部

7 第28回千葉県美術展

会 期 51.11.3~11.(11日間)

展示点数 1,447点

主 催 千葉県美術会・千葉県教育委員会・千葉県

ア. 趣 旨

本県の美術家の作品を広く紹介するとともに、県民の美意識を高め、郷土美術文化の振興と情操の純化に資するために開催するもので、日本画・洋画・彫塑・工芸・書道の各分野を展示する。

イ. 出品点数

	会員	一般	展示点数
日 本 画	72	135	207
洋 画	150	299	449
彫 塑	44	32	76
工 芸	29	67	96
書 道	162	457	619
	457	990	1,447

ウ. 普及事業

印刷物 ポスター 36.4×51.2 2,000枚

目 録 B5版44頁 5,000部



8 第8回千葉県高等学校芸術祭 美術・工芸・書道展

会 期 51.11.20～11.28(8日間)

参加校 79校

主 催 千葉県高等学校芸術祭実行委員会
千葉県教育委員会

ア. 趣 旨

高等学校美術科、工芸科、書道科の一年間の平常授業での成果と、課外活動での成果及び教員の研究作品を展示し合うことにより、生徒は創作活動を刺激され、他校の状況を知り、教員は他校との比較で教育効果、方法について研究することを直接に目指し、間接には千葉県の芸術活動を昂揚することを目的とする。

イ. 参加状況

部 門	書 道	美術・工芸	計
生 徒	70校	51校	121校
教 員	70校 76名	19校	89校 76名
合 計	140校	70校	

ウ. 普及事業

印刷物 図録 B5版12頁 2,000部



9 千葉県芸術祭写真部門 千葉県の文化財写真展

会 期 51.11.20～28(8日間)

展示点数 47点

主 催 千葉県写真家協会・千葉県・千葉県教育委員会・千葉県芸術実行委員会

ア. 趣 旨

千葉県芸術祭に早くから参加していた写真部門が今年から美術館へ会場を移し、千葉県各地にある仏像、建造物、梵鐘、土器、刀剣、絵画等優れた有形文化財の写真を展示。

イ. 出品者数

千葉県写真家協会に所属する会員31名による47点を展示。

ウ. 普及事業

印刷物 目録 A3版変形2折 2,000部



●団体展

展 覧 会 名	内 容	会 期	展示点数
弥 生 展	書星会会員による書道展	51.3.30 ～51.4.4	70
第 1 回 県 民 写 真 展	県下のアマチュアカメラマンより公募した作品展	51.4.6 ～51.4.18	84
葉2回 千葉彫刻展歩会	県下に在住する彫刻家が所属団体、流派にと らわれず作品を発表	51.4.13 ～51.4.25	59
第3回 千葉工芸会展	千葉県及び近県を含む工芸作家の作品展	51.4.20 ～51.5.2	88
第16回 白扇書道会展	白扇会会員による書道展	51.5.11 ～51.5.16	1,800
千 葉 二 科 展	支部会員及び一般公募作品、ジュニア部作品 を展示	51.5.20 ～51.5.30	803
第23回千葉県書道協会展	総合的書道文化の向上をめざし会員及び応募 作品展	51.6.1 ～51.6.6	236
千 葉 書 壇 秀 作 展 書壇新進現代書道50人代表作展	現代書道界の代表作品及び県内から秀抜され た作品を展示	51.7.20 ～51.7.25	262

展 覧 会 名	内 容	会 期	展示点数
第6回 いてふ会彫刻展	千葉大学教育学部美術科を卒業し、現に教職にあり、美術教育に専念する一方で、それぞれの制作に励み、その年の成果を発表	51.8.3 ～51.8.8	36
明るく楽しい家庭づくり ポスター・標語展	健全な家庭づくりの普及、推進を図るため、 県下小・中学生よりポスター・標語を募集、 展示	51.8.17 ～51.8.22	1,503
千葉県立教員養成所美術 クラブOB会 第1回展	造形教育の立場から絵画制作活動の結果を多 面的な表現を試みた児童と教師の作品を展示	51.8.24 ～51.8.29	424
千葉市教職員美術展	千葉市教職員の図工、美術教育、資質の向上 を図るもので、彫塑、絵画、工芸作品を展示	51.8.24 ～51.9.5	139
問 わ れ る 表 現 展	抽象的な作品を主として制作している group 8人が日頃の作品を展示	51.9.7 ～51.9.12	40
千 葉 7 6 展	自由で新しい表現を志向する作家の集団個展 形式で発表し、現代美術の普及を図るため、 平面と立体にわけて展示。	51.9.7 ～51.9.19	150
千 葉 県 拓 本 展	拓本により中国の書道史及び県下の書の状況 を展示	51.9.21 ～51.9.26	127
第8回ファンシー洋画展	主婦を中心としたグループ展で年1回各自の 励まし或は反省をしていくために開催	51.9.26 ～51.10.2	136

展 覧 会 名	内 容	会 期	展示点数
第 6 回 新 構 造 社 千 葉 県 支 部 美 術 展	新構造社の千葉県支部展で絵画、彫刻、工芸 写真を展示	51.9.28 ～51.10.3	115
千葉市水墨画同好会展	水墨画の普及と技術向上を図るため開催	51.10.5 ～51.10.10	435
千 葉 県 立 美 術 館 友 の 会 作 品 展	絵画実技講座に参加した会員の裸婦デッサン 及び水彩画80点、更に友の会員の日頃の力作 49点を加えて展示	51.10.5 ～51.10.17	116
文 化 書 道 県 連 展	正しい教育的、実用的書風を主とし、更に芸 術性のある文字を書くことを目的とし、一般 会員及び学童の作品を展示	51.10.12 ～51.10.17	74
第 23 回 千 葉 県 勤 労 者 美 術 展	県内勤労者が余暇を利用して創作した美術品 の発表の場を提供することによって文化的教 養の向上をはかるため開催	51.10.19 ～51.10.24	275
千葉県大学美術連盟展	絵画、彫塑などの美術を媒体とし、各加盟サ ークル間の親睦をはかり、更に千葉県の文化 に貢献するために開催	51.11.30 ～51.12.5	130
第 21 回 子 ども 県 展	県下児童、生徒の絵画・版画の作品展	51.12.7 ～51.12.19	4,503
第 12 回 登 龍 社 宮 坂 会 書 初 展	登龍社・宮坂会に所属する人たちによる書道 展	52.1.7 ～52.1.9	303

展 覧 会 名	内 容	会 期	展示点数
千葉大学教育学部 美術科卒業制作展	4年間の勉学の成果を発表するもので洋画、 日本画、彫塑、版画、工芸、デザイン等造形 の全分野にわたって展示	52.1.25 ～52.1.30	45
第 29 回 千 葉 県 小・中・高校書初展	県内小・中・高校生を対象とした応募展で、 その中から優秀作品を展示	52.2.1 ～52.2.6	569
千葉大学教育学部 書道科卒業制作展	4年間の勉学の成果を発表するもので、漢文 仮名、近代詩文学の書道の各分野の作品を展 示	52.2.8 ～52.2.13	62
子 ど も 造 形 展	千葉美術アカデミー造形教室展	52.2.8 ～52.2.13	433
日 本 習 字 書 道 展	正しい文字、美しい文字の習字教育の普及を 目指し、幼児、小・中・高校生及び一般成人 の作品を展示	52.2.11 ～52.2.13	1,500
習 美 会 展	習志野市に在住、勤務する人達を中心とした 洋画・日本画・水墨画展	52.2.15 ～52.2.20	248
第2回 千葉県民写真展	写真文化の向上をはかる為に全県下のアマチ ュアカメラマンを対象とした公募展で、一般 成人の部、高校生の部を展示	52.2.22 ～52.3.6	60
第8回 千葉市民美術展	千葉市のより一層の美術の振興、向上を図る ため、公募による総合展覧会	52.3.12 ～52.3.27	702

●利用状況（49.10～52.3 月別）

年度 月	49			50			51		
	入館者数	(団体)	開館日数	入館者数	(団体)	開館日数	入館者数	(団体)	開館日数
4				7,295	101	25	6,029	306	26
5				9,662	435	26	9,097	656	27
6				6,637	257	20	3,551	416	26
7				5,695	607	21	3,615	229	27
8				7,755	0	27	6,517	493	26
9				7,037	161	24	5,960	163	26
10	5,041	0	8	7,290	112	21	7,142	979	22
11	11,001	0	23	19,558	90	24	16,047	717	20
12	1,805	75	21	10,235	419	17	10,599	370	22
1	10,161	1,178	18	7,784	102	22	5,321	146	23
2	9,060	345	20	1,035	49	1	7,492	71	24
3	10,177	240	25	14,288	535	26	11,059	665	28
計	47,245	(1838)	115	104,271	(2868)	254	92,429	(5211)	297
累 計				151,516			243,945		
1日平均	411			411			312		

※団体の利用人数は内数である

●教育普及事業

1. 講演会

51.4.3 浅井忠とグレー村 高橋在久

「浅井忠とその師弟展」開催にともない行ったもので、浅井が滞在したグレー村の生活と現在の状況についての講演。

51.10.9 父 秀真を語る 香取正彦

「香取秀真とその周辺展」開催にともない、子息正彦氏に秀真の鍔金に寄せる情熱、また鍔金史の研究秀真をとりまく世界などについての講演。

映画「余韻は生きる」



2. 解説会

各展覧会の期間中、土曜日2時から行う。また団体見学で希望のある場合はその都度行っている。

51. 4.10	浅井忠とその師弟展	米田耕司
51. 5.10	藤野天光展	佐藤信夫
51. 6.19	〃	石井則孝
51. 8. 7	子どもの絵展	久保木良
51. 8.14	文化庁買上優秀美術作品展	米田耕司
51.10. 2	香取秀真とその周辺展	久保木良
51.10.16	〃	米田耕司



3. 講習会

本年度から美術館のモットーである“みる・かたる・つくる”事業の一環として実技講座を開講。

(1) 絵画実技講座 ～鉛筆デッサンから水彩画まで～

会 期 51.7.30～8.1 (3日間で1講座)
講 師 戸田健夫 (千葉大学教授)
参加者数 40名
内 容 裸婦を使用しての鉛筆デッサンから着彩までの入門講座

(2) 絵画実技講座 ～鉛筆デッサンから水彩画まで～

会 期 51.8.21～8.22 (2日間で1講座)
講 師 武内和夫 (千葉大学教授)
参加者数 40名
内 容 同 上

(3) 版画実技講座

会 期 51.11.27～28 (2日間で1講座)
講 師 長谷川昂 (彫刻家)
参加者数 40名
内 容 版画の良さを知る手初めとして、年賀状へ使用できる目的で彫る・刷るの基本入門講座



4. 見学会

友の会と共催の美の旅は、本年度より県内の文化財と美術品めぐりに加え、県外の見学会も行われた。

(1) 美の旅 ～下総の文化財と美術品を訪ねる～

期 日 51.5.23
参加者数 50名
内 容 春季は県内の文化財見学を計画し、今回は下総の伊能忠敬記念館、香取神宮、成田山資料館を訪ねた。

(2) 美の旅 ～秋の富士箱根国立公園の自然美と県外美術館めぐり～

期 日 51.9.26～9.27 (1泊2日)
参加者数 50名
内 容 初めての県外バス旅行で、神奈川県立近代美術館、熱海美術館、箱根美術館、彫刻の森美術館を見学した。



●みる・かたる・つくる

千葉県立美術館報の発行

B5版 8頁 2,500部

VOL.3 No.1 (51.7.10 発行)

目次・観潮台

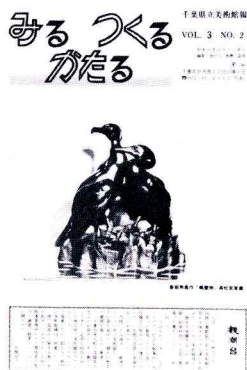
- 「浅井忠とその師弟展」をおえて
- こんな美術館に
- 環境との対話・市民参加へ
——県立美術館の新たな使命——
- 団体展案内
- 展覧会案内
- 新収蔵資料紹介 51.1~5
- 収蔵品紹介 香取秀真作 霊獣文大花瓶
- お知らせ
- 日誌抄 51.3~5



VOL.3 No.2 (51.11.1 発行)

目次・観潮台

- 香取秀真の人柄と功績
- 香取秀真文献目録
- 展覧会案内
- 新収蔵資料紹介 51.6~9
- バス運行紹介
- お知らせ
- 団体展
- 日誌抄



VOL.3 No.3 (52.1.5 発行)

目次・観潮台

- 6部門にわたる勅の試み
——第1回千葉県秀作美術展——
- 新春にあたり三つの願い
- こえ・アンケート
- 美の根・私のへら
- 美術館アラカルト
- メモ——千葉県芸術祭
- 新収蔵資料紹介 51.10~12
- お知らせ
- トピックス
- 展覧会案内
- 日誌抄 51.10~12



●友の会（葉美会）

(1) 入会状況

50年6月1日、11時から千葉県立美術館において「みる・かたる・つくる千葉県立美術館友の会」の設立を図るため、美術愛好の有志12名が集まり準備会がもたれた。

50年6月28日(土)午後2時 第1回友の会のつどい開催
 入会者 50.6.28～51.3 425名
 51.4 ～ 52.3 672名

(2) 組織

総会を年1回、役員会を年6回(隔月)にもち、事業を行う時は各委員会と更に打合せ会をもつ。事務局として美術館普及広報係が担当。

●千葉県立美術館友の会役員名簿（昭和52.4現在）

職 名	氏 名	分 担
名誉会員	松 戸 節 三	
会 長	鈴 木 民 三	
副 会 長	市 原 正 夫	
"	永 田 澄 子	事 業
"	江 尻 幹 雄	親 睦
事務局長	大 里 功	総 務
監 事	始 関 妙	広 報
"	三 宅 寿 美 子	親 睦
理 事	安 田 博 亮	総 務
"	新 城 瑠 璃 子	"
"	田 中 環	事 業
"	押 尾 禎 一	広 報
"	平 野 元 三 郎	親 睦
"	村 上 十 吉	事 業
"	大 藤 敬 美	親 睦
評 議 員	新 城 瑠 璃 子	
"	大 高 鐘 蔵	
"	木 内 俊 雄	
"	安 達 園 子	
"	仲 田 茂 房	
"	永 田 澄 子	
"	三 宅 寿 美 子	
"	押 尾 禎 一	
"	大 藤 敬 美	

職 名	氏 名
評 議 員	高 橋 喜 一 郎
"	藍 野 正 和
"	酒 井 千 代 子
"	日 暮 幸 子
"	松 本 康 雄
"	西 田 葆
"	大 塚 輝 子
"	下 田 祐 子
"	加 藤 信 子
"	長 谷 川 芳 衛
"	近 藤 愛 子
"	日 下 め ぐ み
"	香 川 美 智 子
"	湯 浅 幸 一
"	梶 村 貞 子
"	林 美 貴 枝
"	中 村 綾 子

(3) 事業

- 1) 解説会、講演会、講習会、見学会を美術館と共催で行う。
- 2) 第1回美術館友の会作品展
 会 期 51.10.5～10.17(10日間)
 展示点数 129点

イ. 趣 旨

“みる・かたる・つくる” 美術館活動に協力し、自然の美しさ、ものの美しさにひとりてに描いてみたい感動から生まれた作品の集まりがこの展覧会です。
 絵画実技講座でははじめてナマの裸婦を描いた会員の作品、勤務や家事の合間に描いた苦心の力作等、美術愛好家の集団である友の会としてはじめて創作の楽しさをわかち合う展覧会です。

ロ. 内 容

7月30日～8月1日、8月21日～22日に行なった2回の絵画実技講座——鉛筆デッサンから水彩画まで——に参加した方々の裸婦デッサン及び水彩画80点、更に友の会員の日頃の力作49点を加えて展示。

●友の会だより

「しおさい」の発行

B5版 1,000部

No.4 (51.6.18発行 6頁)

目次・藤野天光展をみて

- 第2回バスの旅 さみだれの北総路に行く
- 友の会副会長・前副会長挨拶
- わたしの名作はがき鑑賞
- ミニミニ・ニュース
- 展覧会案内
- お知らせ



No.5 (51.9.1発行 4頁)

目次・講座に参加して

- ミニミニ・ニュース
- 展覧会案内
- お知らせ



No.6 (51.11.5発行 6頁)

目次・楽しさと力作あふれる——友の会作品展——

- 紅荻こぼれる箱根路に行く
- 第3回バスの旅——
- ミニミニ・ニュース
- 展覧会案内
- お知らせ



No.7 (52.2.25発行 4頁)

目次・つくる楽しさを——版画実技講習会開く——

- 展覧会めぐり
- 友の会51年10のミニ・ニュース
- 随想
- ミニミニ・ニュース
- 展覧会あんない
- お知らせ



関係令規

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

目 的

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。（開館時間）

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

（休館日）

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）
 - 二 国民の祝日に関する法律に規定する日
 - 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
 - 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
 - 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日
- 2 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することがある。

（入館の制限）

第4条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会を観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しないもの
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者
- 三 てい醉者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

（観覧券等）

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第2号様式）により、館長に申し込まなければならない。

（禁止行為）

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。
- 二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。
- 三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。
- 四 その他他の入館者の妨げになるような行為をすること。

（損害の賠償）

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることができる。

（委 任）

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附 則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

（趣 旨）

第1条 県が徴収する使用料及び手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

（使用料等の徴収）

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

（種類及び額）

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は別表第一に掲げるとおりとする。

（中 略）

別表第一（第3条第1項抜粋）

財産又は事務の種類	手数料	区 分	単 位	額
博 物 館	入場料	特別展覧会	1人1回につき	300円以内

（以下略）

3. 展示室使用料

昭和50年4月1日千葉県教育委員会指示第71号

1. 千葉県立美術館展示室の使用料については、使用料及び手数料条例第5条第3項に基づき減免することとし、当分の間次表のとりの額とする。

室 名	面 積	使 用 料 午前9時から午後5時まで	
		観覧料無料、 展示物販売を しない場合	観覧料有料又は 展示物販売 をする場合
第一展示室	438 m ²	4,000円	左の倍額
第二展示室	400	4,000	〃
第三展示室	469	4,500	〃
第四展示室	403	4,000	〃
第五展示室	824	8,000	〃
第六展示室	330	3,000	〃
第七展示室	567	5,500	〃
全 室	3,431	33,000	〃

ただし、県及び県教育委員会が主催ないし後援する場合並びに国又は他の地方公共団体の主催ないし共催する行事に係る使用の場合は無料とし、その他県教育委員会教育長が特に教育的文化的意義を認める行事に係る使用の場合は上記の半額とする。

- 2 千葉県立美術館展示室の使用の許可に関する取扱いは、別紙「千葉県立美術館展示室の使用許可に関する取扱要綱」によるものとする。

●千葉県立美術館友の会会則

(名 称)

第1条 本会は、千葉県立美術館友の会という。(略称、葉美会)

(事務所)

第2条 本会は、事務局を千葉県立美術館内におく。

(目 的)

第3条 本会は、千葉県立美術館（以下「館」という。）の活動に協力し、楽しいびんい気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深めることを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業をおこなう。

1. 館の展覧会の見学鑑賞
2. 講演会、講習会、研究会等
3. 館外見学会
4. 機関紙等の編集発行

5. その他目的達成に必要な事業

(会 員)

第5条 本会は、会の目的に賛同するものをもって組織する。

1. 会員には次の特典がある。

①館の主催又は共催による展覧会観覧の優待

②美術館報「みる・かたる・つくる」ならびに友の会機関紙の配布

③本会発行の図録等の配布及び割引購入 ④本会事業への参加

2. 本会活動に協力し、賛助会費を納めたものは賛助会員とする。(会員の加入・退会)

第6条 本会に加入する場合は申込書に入会金(500円)を添えて事務局に提出し、会員証の交付を受ける。退会の際は退会届を提出する。

(役 員)

第7条 本会に次の役員をおく。

会長 1名 副会長 3名(ただし内1名は美術館長があたる)

理事 若十名 事務局長 1名 監事 2名 評議員 若十名

1. 会長・副会長・理事・事務局長・監事の選出は評議員会において推挙する。

2. 役員の任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

(役員等の任務)

第8条 本会の役員の任務は次のとおりとする。

1. 会長は本会を代表して会務を総理し、会議を召集し、その議長となる。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。

3. 理事は会の運営にあたる。

4. 事務局長は会務を処理する。

5. 監事は本会会計の監査をする。

(顧問・名誉会員)

第9条 この会に顧問及び名誉会員をおくことができる。顧問及び名誉会員は評議員会で推挙する。

(支 部)

第10条 地域、並びに職域ごとに20名以上の会員を有する場合は支部をおく。

(評議員会)

第11条 各支部より20名につき1名の割合で推せんされた代表と賛助会員及び講座代表をもって評議員会を構成する。評議員会は毎年1回以上開き、事業計画、予算、決算、役員の決定その他の重要方針を決議する。

(会 費)

第12条 本会の普通会員は毎年度当初に年額 1,200円の会費を納入する。

1. 5月以降の入会者については1ヵ月ごとに 100円を減減するものとする。ただし減減金額は、600円を限度とする。

2. 賛助会費は、年額1万円10,000円とする。

(経 費)

第13条 本会の経費は会費、寄附金、事業収益金、その他の収入をもってあくる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日におわる。

(職 員)

第15条 本会の事務局職員は館に勤務する者以外から、会長が委嘱する。

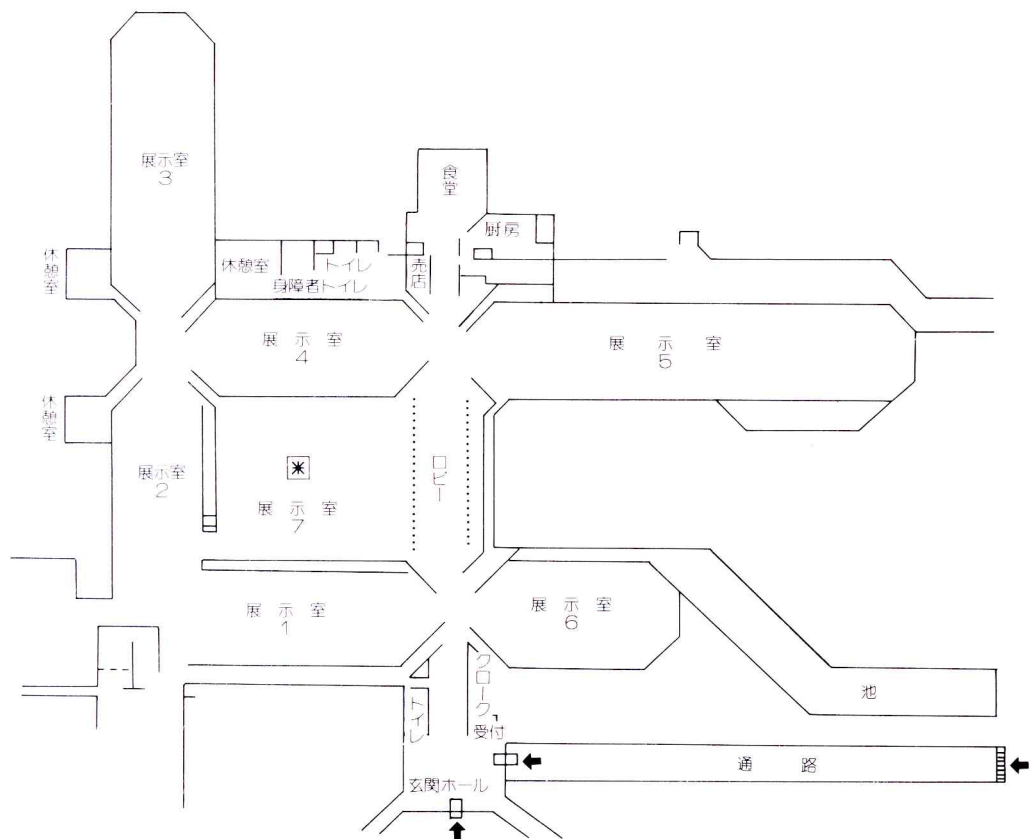
(付 則)

1. 本会の会則は評議員会で出席者の過半数の同意を得なければ変更することができない。

2. 本会則は昭和50年6月28日より施行する。

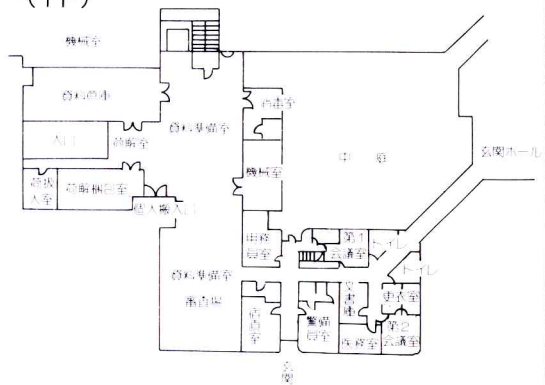
●昭和51年5月29日一部改正 ●昭和52年4月21日一部改正

展示棟平面図

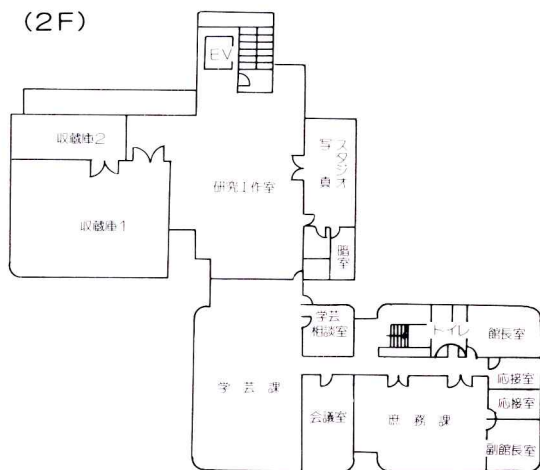


管理棟平面図

(1F)



(2F)



利用案内

- 開館時間** 午前9時より午後4時30分まで
- 休館日** ・月曜日（ただし、月曜日が祝日のときは開館）
・年末年始（12月26日～1月4日）
・展示替等のため、必要があるとき。
- 入館料** ・無料（ただし、特別展は有料）
- 団体観覧** ・団体に来館されるとき、あらかじめご連絡あれば作品等の解説をします。

交通案内

国鉄千葉駅前バス停③④番より「千葉市役所行」小湊、京成、中央各バスで終点下車、徒歩約10分・⑦番「新港行」小湊、京成バスで中央署前下車、徒歩約6分

※日曜・祝日に限り下記のとおりバスが運行されています。

千葉駅発そごうデパート前	美術館発・玄関北側
9:40	9:55
10:10	10:25
10:40	11:00
11:15	12:25
12:40	12:55
13:10	13:25
13:40	14:20
14:35	14:50
15:05	15:30
15:45	16:00

案内図

